

	主な授業内容	学習のねらい
1・2 時間目 11/ 2(木)	礼法と作法の行い方、講話、音楽に合わせて技の動きを覚える	・龍王拳第1系の行い方（八つの動き）を覚える→最後に小テスト
3・4 時間目 11/ 9(木)	音楽に合わせた技の練習、演武グループ練習、講話、演武録画	・技のポイントに従って相対演武ができる ・自分の課題を見つけ、課題解決に向けた工夫ができる→最後に小テスト ・礼法・作法などの伝統的な行動の仕方を守ることができる→最後に小テスト
5・6 時間目 11/11(金)	音楽に合わせた技の練習、演武のグループ練習、演武を録画・提出	・龍王拳第1系の相対演武ができる→演武の録画・提出 ・自分の課題を見つけ、課題解決に向けた工夫ができる→振り返りシートを記入・提出



シリーズ 中学校武道

授業の充実に向けて

170

つまずきをどう克服したか 63 (令和の日本型学校教育と武道指導のあり方を考える少林寺拳法授業)

岡山県笠岡市立真鍋中学校の小井寿史校長は複数の小・中学校をICT（情報通信技術）を活用した機器で繋いだオンラインの武道授業（少林寺拳法）を実践しており、本誌でもその内容の一部を紹介した（2022年9月号の特別寄稿参照）。

令和4年度は同市立の神島外中、真鍋中、金浦中の3校に加え、不登校やひきこもりなど学校で生きづらさを抱えている子どもが生活する一般社団法人飛鳥学園「フリースクール育海」にも参加を呼びかけ、計4校合同でのオンライン武道授業を実施した。本誌編集部は昨年11月上旬にこのうちの神島外中、金浦中での武道授業を取材。授業内容やその中の工夫、現場の声を紹介する。

1 授業の経緯

小井校長は平成21年度から笠岡市内の小・中学校で少林寺拳法の授業を実践している。その授業は自分の学校だけでなく、外部講師として市内の他の学校でも行っていた。令和3年度に赴任した真鍋小は他校との行き来が不便な瀬戸内海の離島・真鍋島にあり、外部指導が困難となった。そこで、各校をオンラインで繋いだ授業形式を考案。令和3年度は同じ真鍋島

にある真鍋中、陸地部にある金浦中、そして真鍋小の3校で武道授業を行った。令和4年度は真鍋小の在籍児童がいなくなったため休校となり、小井校長は真鍋中の校長へ転任となった。

そんな中、コロナの影響で剣道授業の変更を余儀なくされた陸地部の神島外中が、接触の少ない少林寺拳法授業の参加を希望。また、不登校などの児童・生徒を対象に同市の大飛島で離島留学を実施している（一社）飛鳥学園の「フリースクール育海」も、昨年8月から、真鍋中の職員が育海の施設を見学したり、育海の生徒と職員

が真鍋中を見学に来たりと交流を始めていた。小井校長は育海や真鍋中のように小規模集団で生活する子どもにとって、たくさんの人や考え方に触れることができる交流学習は多様性を学ぶ上で貴重であると考案、育海の生徒に少林寺拳法のオンライン授業のことを伝えた。育海の生徒も職員も関心を持ち、11月の授業に参加した。

2 授業内容

令和4年度の授業は1回2時間の全3回、計6時間。今回は3回目（5・6時間目）の授業を取材した。生徒は3中学校の1年生76名、2年生71名、3年生16名とフリースクールの生徒4名の合計167名。この日、小井校長は真鍋中の生徒4名とともに神島外中へ移動し計3カ所で行った。

▼目標確認と礼法

3校がオンラインで接続されたのを確認し、全体で挨拶を行った後、この日の目標を確認した。続

いて小井校長が授業について生徒に説明した。「今日は最後の授業なので演武を動画撮影してもらいます。先生たちはこの動画と振り返りを見て評価をします。そのため、今回は『自分の課題を見つけ、どんな工夫をして改善したか』を具体的な言葉で説明できるようにすることを目標に取り組んでください。体育の授業評価は『知識・技能』『思考力・判断力・表現力』『主体的に学習に取り組む態度』の3観点で構成されています。振り返りの部分で先ほどの目標をしっかりと自分の言葉で書くことができれば点数が取れるので、頑張ってくださいませよう」

▼音楽に合わせた技の練習

座禅の終了後、ウォーミングアップを兼ねて3校全員で音楽に合わせた「龍王拳第1系」の練習を実施した。曲は女性ボーカルAdo（アド）の「新時代」。音楽を流すのは神島外中と金浦中の2校で「フリースクール育海」は神島外中の音楽に合わせて動きの練習



神島外中
Adoの「新時代」の曲に合わせて形を練習



金浦中
座禅の学習



神島外中
スライドを使って授業の目標を確認する小井校長（左端）。画面には他の2会場の様子も映し出された



金浦中
提出用の動画を撮影する生徒たち



神島外中
動画撮影の前にICTの支援員が使い方を説明

を実施した。音楽のサビの部分では動きを速くするなど、単調にならない工夫がされていた。生徒たちの気合いも曲が進むにつれて自然と大きくなり、最後の方は全員が生き生きと笑顔で動いていた。

▼龍王拳第1系の相対練習・動画撮影の振り返り

各校で龍王拳第1系の相対練習を実施した。まず、小井校長が以下のポイントを手本を示しながら解説した。

- ・相手に腕を掴まれたら手はパールの形にする
- ・左足、右足の順に足捌きを行う
- ・開いた手はみぞおちの前で固定し、体の軸を作り、右足から腰を回転させて肘を回して小手抜きを行う

小井校長は、動画の内容は以上の点を踏まえて評価をする旨を生徒に説明。技の見栄えよりも基本のポイントができてきていることの大切さを伝えた。生徒はそれぞれ練習した後、提出するための動画を撮影。生徒は技を上達させるために保健体育科教員の助言を受けてできない部分を繰り返し練習して

3 現場の声と授業の特徴

いた。また、生徒同士でアドバイスし合い、技の修練に励んだ。最後にまとめとして、グループのソフト「クラスルーム」を使い、専用のアンケートに記入して提出した。その後、各校の代表者が演武の発表を行った。代表の生徒は緊張しつつもしっかりとした気合いや動きを見せて堂々と演武。他会場の生徒たちは画面を通じて演武に見入っていた。

まず、現場の声として各中学校の教員と生徒の感想を紹介する。

▼神島外中の保健体育科教員

「私は少林寺拳法の経験はありません。（実施に関しては）令和3年に金浦中での少林寺拳法の授業を見学し、本校の教員と生徒が少林寺拳法をやっていることもあって、授業への期待は大きかったです。武道は学び合いができる種目だとは思っていましたが、少林寺拳法は友人同士で教え合う姿が印

象的でした。そのためか、武道が苦手だった生徒が積極的に動く様子が見られましたし、今日が（少林寺拳法の）最後の授業と伝えると寂しがっていました。合同で授業ができたのもよかったですと感じています。また、評価に関しては授業前に小井校長先生からどのような部分を評価すべきかを具体的に教えていただきました。振り返りについても評価しやすい内容でアンケート項目を作成いただいたのでとてもありがたかったです」

▼神島外中の島岡純三校長

「授業プログラムは生徒に興味を持たせられる、非常に研究された内容だったと思います。生徒の中には経験者がいますが、その生徒が今回の授業でいきいきとしている様子も印象的でした。生徒の自信にも繋がり、成長も感じ取ることができました」

▼金浦中の保健体育科教員

「前年度までの反省点を踏まえ、小井校長先生が技のポイントや評価について、より明確に簡潔にしてくださいました。そのため、生徒は学習評価のポイントを意識して教え合い、楽しみながら技の練習に取り組むことができました。オンライン授業の実施前に各校の保健体育科教員が集まり、授業で扱う技の練習・単元計画・学習評価の方法について研修会ができたので、私も実技指導に自信をもって臨むことができました」

▼フリースクール育海の担当者

「島にいながらオンラインで市内の中学生の活動に関わることは、とても貴重な体験となりました。初めての少林寺拳法は形を覚えるのが難しかったですが、音楽に合わせて体を動かし、相手と息を合わせて声を出すなど、フリースクールの子どもたちにも楽しく取り組める内容でした」

授業で特徴的だったのはサポート体制が充実していたことである。授業はオンラインかつ合同での実施だったため、ICT機材をスムーズに使用できることがポイントとなる。そこで、ベネッセコーポレーションから神島外・金浦の2中学校に派遣されているICTの支援員がサポートを実施。機器操作の説明や接続トラブルなどにも対応した。

そして少林寺拳法を実施する上で保健体育科教員が抱える不安を和らげる工夫もあった。前述のように単元計画や評価のポイントなどは事前に小井校長が明確化し、具体的な資料を配布。各校には少林寺拳法の道場で指導にあたる外部講師が1名ずつ派遣されており、生徒の疑問に的確に対応できる環境を整えていた。

さらに生徒の自主的な学習意欲と授業への前向きな姿勢も印象に残った。多くの生徒が休憩時間に「自主練」を行っていたのである。生徒一人一人が少林寺拳法に対して前向きに取り組む、楽しそうに学習を行っていると感じた。しか

し、こうした姿勢は開始当初からではなかったと神島外中の鳥岡校長は語る。

「本年度の初めに、少林寺拳法の授業を実施すると生徒に伝えた時はあまり良い反応ではありませんでした。しかし、音楽を活用した技の学習や『動きは完全にできていなくてもポイントをつかみ流れが理解できれば大丈夫』という小井校長先生の声かけのおかげで硬いイメージがなくなり、生徒たちが楽しく学習できる環境に繋がったのだと思います」

また、授業を合同にしたことで



神島外中
教員も生徒も楽しく授業を実施していた

他校の生徒と一体感が生まれたことも好材料だったと考えられる。授業を受けた生徒からは「他校の子と授業を受けて楽しかったです」という感想があった。

そして、生徒だけでなく教員も楽しくかつ自主的に少林寺拳法に取り組んでいた。神島外中の授業では保健体育科以外の教員も楽しそうに授業に参加し、生徒に「今のかっこ良かったよ」「もう少しこうするともっとかっこ良くなるよ」などと声かけをしていた。生徒もこれにこたえるように、より熱心に練習を行っていた。全体として生徒が主体的に学びに向かう授業プログラムだったのではないだろうか。

4 授業の課題と今後の取り組み

全体的に完成度が高く、合同授業のモデルケースになりうる今回の授業だったが、残念だったのは通信が切れるなど、ネット環境の不具合である。授業開始時にオン

ラインで繋がっているはずの2校と接続ができなかった。ICTの支援員がこの事態に対応したが、修復まで授業が止まったり、修復後に他の2校に改めて説明する時間を要した。こうしたトラブルへの対応が必要と思われる。

今後の授業について小井校長は次のように語った。

「今後、学校現場では、『令和の日本型学校教育』の構築がますます進んでいくでしょう。その柱となるのは、『ICTを活用した個別最適な学び』と『生徒主体の協働的な学び』です。保健体育・武道の授業においても、これらを効果的に取り入れ、生徒が楽しみながら主体的に活動し、学習効果を実感できる授業づくりが求められます。武道の礼儀作法や伝統的な考え方を学ぶ場面では、厳かな武道の伝統的な学び方で『技能』『思考力・判断力・表現力』『学びに向かう力』の向上を目指し、子どもが主体的に活動する場面では、『ICT活用』や『協働的な学習』を取り入れた現代的な学び方で、

さを取り合わせた授業づくりを進めることが大切だと思います」
今回の合同授業は、これからの武道授業を考えていく上で重要な点が多くあると感じた。複数の学校をオンラインで繋いで授業を行うことは生徒数の減少対策や離島を含むへき地教育の充実、ICT機器の活用という面で有効と見えるだろう。教員・生徒が楽しく授業を行えるような授業プログラムの作成は武道授業を継続していくために重要である。その楽しさの中で子どもたちが日本固有の伝統文化である武道を正しく理解できる環境も必要であろう。
教育を取り巻く状況が大きく変化の中で、変えていくべき部分はどこか、変わらない部分はどこかを明確にすることが今後の武道授業では重要になってくるのではないだろうか。

(編集部 和久田侑里)

好評販売中

マンガ・日本武道風土記 (上・下巻)

漫画家・別府大学客員教授

田代しんたろう 著



マンガ・日本武道風土記 (上巻)
上巻 B5判・248頁・定価1100円



マンガ・日本武道風土記 (下巻)
下巻 B5判・248頁・定価1100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の史料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。
遠くへ足を運ばない今、マンガの世界で日本各地を巡ってみては。

上巻目次

- 第1章 柔道のまち・久慈と三船十段
- 第2章 尚古集成館と薩摩文化
- 第3章 日本一の弓のまち・都城
- 第4章 相撲ロマンの地 出雲・隠岐
- 第5章 沖繩の伝統文化・空手道
- 第6章 合気道開祖の生地・南紀田辺市
- 第7章 少林寺拳法発祥の地・多度津
- 第8章 なぎなたのまち伊丹市
- 第9章 湖西に響く銃剣道の気合いあとかぎ

下巻目次

- 第10章 柔道の鬼を生んだ町・川尻
- 第11章 武術の源流 鹿島・香取
- 第12章 日置流弓術の地 近江・竜王町
- 第13章 緑の木曾谷にハツケヨイ!
- 第14章 沖繩伝統空手の今と未来
- 第15章 合気道黎明の地 北海道・白滝
- 第16章 讃岐の地に少林寺拳法総本部
- 第17章 なよ竹の心伝える会津
- 第18章 銃剣道の甲子園・岩沼市あとかぎ

田代しんたろう (たしろしんたろう)



本名、田代為寛(ためひろ)。昭和23年(1948)東京都大田区生まれ。2歳から10歳までの間大阪千里山で過ごす。都立小山台高校在学時に『ガロ』入選作品『宇宙の出来事』でデビュー。早稲田大学漫画研究会及び早稲田大学政治経済学部卒業。ファミリー四コマ漫画誌などにほのぼのムードの作品を執筆。ルボ漫画、地方分権・選挙法など行政政経冊子、地方自治アニメビデオ等多数制作。平成20年4月より、別府大学文学部国際言語・文化学科教授。主な著書は、『まんがで学習 漢字事典 五年生』(あかね書房)、『マンガ・武道のすすめ』(日本武道館)、『マンガ・武道の偉人たち』(日本武道館)、『まんがが子どもランド』(日本武道館)、『きょうはなんの日365日事典』(あかね書房)、『まんがが子どもなんでも相談室1なやみの笑顔』(小峰書店)、『我がまち川口・再発見』(川口市)など。

編集・発行 公益財団法人 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <https://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課までどうぞ!
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

